

令和2年度（2020）

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園

専門学校穴吹ビジネスカレッジ

# 学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 専門学校穴吹ビジネスカレッジ 学校関係者評価委員会は、令和元年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施致しましたので、ご報告致します。

令和3年3月10日

学校法人穴吹学園 専門学校穴吹ビジネスカレッジ  
学校関係者評価委員会

## 1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて専門学校穴吹ビジネスカレッジの自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、専門学校穴吹ビジネスカレッジが行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

## 2. 学校関係者評価委員会

(委員)

小川 幸彦	元高等学校校長
村川 晶子	株式会社 J R 四国ホテルズ
市原 克美	ハウス美装工業株式会社
上枝 洋介	本校卒業生
高橋 由紀	本校在校生保護者

(学校教職員)

篠原 達司	専門学校穴吹ビジネスカレッジ	校長
戸倉 潤也	専門学校穴吹ビジネスカレッジ	副校長
馬場 隆信	専門学校穴吹ビジネスカレッジ	教務担当部長
西山 幸宏	専門学校穴吹ビジネスカレッジ	教務課長

## 3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 令和3年3月9日(火) 14:00~15:30

開催場所 学校法人穴吹学園 専門学校穴吹ビジネスカレッジ テクノホール

## 4. 自己評価結果の説明・報告(自己評価報告書参照)

当校の「教育理念」、「目的」及び「令和元年度の目標と計画」について説明。各自己評価項目について「評価結果(総括)」、と「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」について報告。書式は、香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式にて実施。

各評価項目について、「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である 「D」不十分である の4段階にて評価。

## 5. 校長より本校を取り巻く状況について説明

①今年度はコロナの影響により連年と違う形になったものもあり、コロナが収束した後も不測の事態に備えて対応できる体制が求められている。

(今年の変更点)

- ・ 4月入学式中止、4月からの授業を延期休講し、5月の連休明けからオンライン授業開始した
- ・ 6月いっぱいまでオンラインと対面のハイブリッド型で実施
- ・ 学校行事（穴吹祭、合同スポーツ大会）の中止

②せとうち観光専門職短期大学と穴吹学園高等学校の開学について

穴吹学園高等学校が本校の4階5階に設置される。通信制の高校である。

教育の質を上げる為に、授業でのタブレット利用、グローバル教育、社会の課題解決にチャレンジするカリキュラムとなる

③本校の学科配置の見直しについて

少子化の進行の中で選ばれる教育機関となる為に選択した。

穴吹学園高等学校の開学に伴って、学科配置の見直しを行う

ブライダル学科 → 浜街道校舎へ

ホテル学科 → 廃止へ

## 6. 添付資料について説明

①自己評価報告書について

本校自身で行った自己評価について学校をサポートしている皆様から意見をいただきたい。

たくさん項目があるが、実施できていない項目は卒業生支援について（検定対策、研修実施）である卒業生全体に案内はできていないが、個別には行っており、例えば企業ビジネス学科(不動産専攻)では宅建士取得のフォローアップを行っており、今後もこの様な形で実施していきたい。

今年度卒業生から在学中に利用していた Google アカウントを継続利用できるようにし、同窓会との連携も考えていく。

総括として、学生募集目標は達成できた、コロナの影響もあり県内で進路を決めた高校生が増えたことも要因ではあるが、本校の取り組みや、世の中のニーズに沿った学科ラインアップが評価されていると考えている。

②教育理念・教育目的・教育目標について

次年度よりブライダル学科が浜街道校舎ビューティカレッジへ移動

新学科も設立する。

③カリキュラムについて

本委員会とは別の教育課程編成委員会にて検討していただいているが、時代に合わせて変化している。

#### ④資格・検定について

コロナの影響で今年度実施が中止になった検定もあった。その一方で実施形態がペーパー試験から C B T 試験 (Computer Based Testing) に変わった試験もあった。  
今年度ビジネスカレッジでは行政書士に合格した学生がいた。

#### ⑤就職実績について

多数の企業で就職試験が W e b 化、オンライン化された。  
求人数が減少した学科もあり、特にブライダル学科は影響を受けた。

#### ⑥別紙：オンライン授業アンケートについて

アンケート結果がすごく良いというものではなかったが、アンケート実施することで、実際にオンライン授業を実施して良かった点、悪かった点が明確になった。  
実際にオンライン授業を行った感想として、学生の理解度が分からず、対面授業に戻った後に確認テストを行った際に結果が悪かった事もあった。  
現状では穴吹学園の高松校ではコロナウイルス感染者は出ていないが、学びたいという気持ちに応え続けていくことが必要であると考えている。

### ○外部委員より意見・質問

#### ①小川委員

県内からの進学が高まっているのは実感としてどうか

→オープンキャンパスでの毎回の来校数で見ることができた。また全日制高校だけでなく広域通信制高校からも多くの出願をいただいている

ゲームクリエイター学科の浜街道校舎移転に伴って、学生管理、指導はどうか

→浜街道校舎に常駐する教員と連携しながら行っていく。

#### ②市原委員

資格取得実績に N 2、N 3 があるが、国際 I T エンジニア学科の学生に対して日本語の授業は行っているのか

→行っている。

ハイブリッド型授業とはどのような形態か

→曜日を分けて登校するクラス、オンライン授業を受けるクラスという形で実施した

ビジネスカレッジではないが、卒業年次を優先して進級年次は次年度に持ち越した学校もあった

高等学院の定員は充足していたのか、また設置環境としてはどうか

→充足はしていない。定員 80 名以上等、専門学校よりも設置基準が厳しくなっている。

### ③上枝委員

入学生の卒業状況はどうか、就職状況も合わせて

→ほぼ全員が卒業しているが、クラスによっては1割弱の学生が途中退学することもある。

また卒業学生については全員が就職している。

過去5年程度での入学生の状況は

→あまり変化はないが、最近は増えている。コロナの影響と留学生学科を設置したことによる。

オンライン授業の今後は

→教育効果が高いものについては今後も行っていきたい。対面授業にこだわっているものではない。

インターネット上に様々な情報があふれており、そのような環境の中での専門学校の優位性を考えていただきたい。

### ○その他意見等

自己評価の項目は前提として、本来行うべき項目なのか

→専門学校としてやるべきこととして記載されている為、できる限りそれに沿える形を目指したい。

項目の表記の「卒業生」という言葉がどこまでの卒業生を意味しているのか分かりにくい

→確かにその通りである。現状の認識としては「直近の卒業生」という解釈をしている。

自己評価の項目に真新しさが無いように思える。コロナの事も時代に合わせて変化していくべきではないか

貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。これからも皆様のご期待に添えますよう、教職員一同、日々努力して参りますのでよろしくお願ひ申し上げます。

以上